

# 国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要

## 「言語B」

2020年第1回試験

ディプロマプログラム (DP: Diploma Programme) は、16歳から19歳までの大学入学前の生徒を対象とした、綿密に組まれた教育プログラムです。幅広い分野を学習する2年間のプログラムで、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間を育成することを目的としています。また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し評価するために必要な態度を育むことを目指しています。

DPは、中心となる核(「コア」)を6つの教科が取り囲む構成になっています。生徒は、「言語と文学」(グループ1)と「言語の習得」(グループ2)から現代言語を2言語(または現代言語と古典言語を1言語ずつ)、「個人と社会」(グループ3)から人文または社会科学を1科目、「理科」(グループ4)から1科目、「数学」(グループ5)から1科目、そして「芸術」(グループ6)から1科目を履修します。ただし、「芸術」から1科目選ぶ代わりに、他の教科で2科目選択することもできます。多岐にわたる分野を学習するため、学習量が多く、大学入学に向けて効果的に準備できるようになっています。各教科から柔軟に科目を選択できるため、特に興味のある科目や、大学で専攻したいと考えている分野の科目を選ぶことができます。

通常は、3科目(最大4科目)を上級レベル(HL: higher level)、その他を標準レベル(SL: standard level)で履修します。IBでは、HL科目の学習に240時間、SL科目の学習に150時間を割りあててを推奨しています。HL科目はSL科目よりも幅広い内容を深く学習します。

これらに加えて、「課題論文」(EE: extended essay)、「知の理論」(TOK: theory of knowledge)、「創造性・活動・奉仕」(CAS: creativity, activity, service)の3つの「コア」要素があります。「コア」科目は必修で、DPの理念の中核を成すものです。

この『IB DP 科目の概要』は以下の4つから構成されています。

I. コースの説明とねらい

II. カリキュラムモデルの概要

III. 評価のモデル

IV. 学習内容の概要



## I. コースの説明とねらい

「言語の習得」には、「初級外国語」(ab initio)と「言語B」という現代語の2つの科目があります。これらのコースは、学習言語が話されている環境で効果的にコミュニケーションをとるために必要なスキルと文化理解を得られるよう設計されています。

「言語B」は、学習言語に関してある程度の経験を有する生徒のための「言語の習得」のコースです。生徒は、言語、テーマ、テキストの学習を通じて、コミュニケーション能力をさらに高めます。また、アイデンティティ、経験、人間の創造性、社会の構造、そしてこの地球を共有すること、という5つの所定のテーマに取り組みます。

「言語B」では、SL・HLともに、なじみのある文脈やなじみのない文脈において学習言語でコミュニケーションすることを学びます。SLとHLの違いは、受容(聞く・読む)スキル、産出(話す・書く)スキル、やりとりのスキルで到達が期待されるレベルの違いに現れます。

HLでは、学習言語で原作が書かれた文学作品2つを学習することが必須とされており、コミュニケーションをとるために使用し理解する言語の幅を広げ、かつ複雑さを高めていくことが期待されています。語彙と文法の知識を引き続き習得するだけでなく、言語がどのように機能するかについての概念的な理解を養うことで、コースの学習内容と学習言語の文化に関係するさまざまなトピックについての議論を構築し、分析し、評価できるようにします。

次に記載する「言語の習得」の学習のねらいは、「初級外国語」と「言語B」に共通しています。

- 言語、文化、およびグローバルな重要性のある考えや問題の学習を通じて、国際的な視野を養う。
- 多岐にわたる文脈において、さまざまな目的に合わせて、学習した言語でコミュニケーションできるようになる。
- テキストの学習および人との交流を通じて、多様な文化に属する人々のさまざまなものの見方を認識し、その価値を認められるようになる。
- 生徒にとってなじみのある言語と文化の間に存在する関係性についての理解を深める。
- 他の知識分野との関連から、言語がもつ重要性についての認識を発達させる。
- 言語の学習と探究のプロセスを通じて、知的な取り組みに従事し、批判的思考スキルと創造的思考スキルを向上させる機会を生徒に提供する。
- 付加言語を使って、学習、労働、余暇活動をさらに充実させるための基礎を提供する。
- 言語学習への興味、言語学習における創造性、また生涯にわたる言語学習の喜びを育む。

## II. カリキュラムモデルの概要

このカリキュラムは、5つの所定のテーマを中心に構成されており、書面、音声、視覚、視聴覚のテキストを通じてこれらに取り組んでいきます。

生徒は、文脈、受け手、目的、意味、変化形の概念的な理解を考察することで、有意義かつ効果的なコミュニケーションができる人へと成長します。

コミュニケーションは、受容（聞く・読む）スキル、産出（話す・書く）スキル、やりとりのスキルとなって表れます。

## III. 評価のモデル

「言語の習得」の評価目標は、「初級外国語」と「言語B」に共通しています。

- 多岐にわたる文脈において、さまざまな目的に合わせて明確かつ効果的にコミュニケーションできる。
- さまざまな対人的、文化的文脈、および受け手に対する適切な言語を理解し、使用できる。
- 流暢さと正確さをもってさまざまな考えを表現したり、さまざまな考えに反応したりするために言語を理解し、使用できる。
- 多岐にわたるトピックについて、考えを特定し、整理し、提示できる。
- 多岐にわたる書面、音声、視覚、視聴覚のテキストを理解し、分析し、振り返ることができる。

## 評価の概要

「言語B」(SL・HL)の評価の概要		配点比率
外部評価 75%	試験問題1：(産出スキル) 1つの記述課題—3つの選択肢から選択 書く—30点	25%
	試験問題2：(受容スキル) 聞くスキルと読むスキルの各セクション 聞く—25点 読む—40点	25% 25%
内部評価 25%	個人口述評価 30点	25%

「言語B」では、SLとHLの評価概要に違いはありません。異なるのは評価の性質であって、これによってSLの評価とHLの評価が区別されます。

「言語B」のHLの試験問題1では、より複雑な言語と構造を必要とする課題が設定され、高次の思考スキルが求められます。またHLでは、より複雑な答えが求められていることから、それに対応するために語数も多くなっています。

「言語B」のSLの内部評価の個人口述では、コースで学習したテーマのいずれか（または複数）に明確に関係する視覚素材を刺激材料として使用します。「言語B」のHLでは、学習した文学作品2つのうちいずれかからの抜粋を材料として使用します。

## IV. 学習内容の概要

テーマ	指針となる原則	推奨されるトピック (任意)	考えられる問い	
アイデンティティー	自分の本質と、自分という人間を表現する方法を模索する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活様式</li> <li>健康と幸福</li> <li>信念と価値観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サブカルチャー</li> <li>言語とアイデンティティー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデンティティーを構成するものは何か。</li> <li>言語と文化は、私たちのアイデンティティー形成にどのように寄与するのか。</li> </ul>
経験	私たちの生活を形づくっている出来事、経験、道のりの物語を探り、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>余暇活動</li> <li>休暇と旅行</li> <li>体験談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通過儀礼</li> <li>慣習と伝統</li> <li>移住</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちの過去は、私たちの現在と未来をどのように形づくるのか。</li> <li>異なる文化はそれぞれ、どのように人生の重要な瞬間を決定しているか、またその理由は何か。</li> </ul>
人間の創造性	人間の創造性や革新性が私たちの世界にどのように影響しているかを探る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンターテインメント</li> <li>芸術表現</li> <li>コミュニケーションとメディア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テクノロジー</li> <li>科学の革新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちは芸術表現を通して文化について何を学ぶことができるか。</li> <li>メディアは、私たちが互いに関係する方法をどのように変化させるか。</li> </ul>
社会の構造	共通のシステムや関心事を通じて、集団が自分たちをどのように組織化するのか、また組織化されるのかを探る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な関係</li> <li>コミュニティ</li> <li>社会との関わり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育</li> <li>仕事の世界</li> <li>法と秩序</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティにおいて個人が果たす役割は何か。</li> <li>規則や規制は、社会の形成においてどのような役割を果たすのか。</li> </ul>
この地球を共有するということ	現代世界において個人とコミュニティが直面している課題と機会を探る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境</li> <li>人権</li> <li>平和と紛争</li> <li>平等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化</li> <li>倫理</li> <li>都市と田舎の環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような環境問題および社会問題が、世界に課題をもたらしているか。これらの課題はどうすれば克服できるか。</li> <li>グローバル化は、どのような課題とメリットをもたらすか。</li> </ul>

IBについて：IBは、過去50年以上にわたり、質の高いチャレンジに満ちた教育プログラムとしての定評を築いてきました。国際的な視野をもって21世紀の現実の課題に対応することで、より良い、より平和な世界の創造に貢献していくことのできる若者を育成しています。

DPについての詳細は、IBのウェブサイト ([www.ibo.org/en/programmes/diploma-programme/](http://www.ibo.org/en/programmes/diploma-programme/)) でご覧いただけます。

『指導の手引き』の完全版は、IBのプログラム・リソース・センターからアクセスできるほか、IBストア ([store.ibo.org](http://store.ibo.org)) でご購入いただけます。

DPが大学での成功に向けた素地づくりにどのように貢献するかについては、IBのウェブサイト ([www.ibo.org/en/university-admission](http://www.ibo.org/en/university-admission)) をご覧ください。